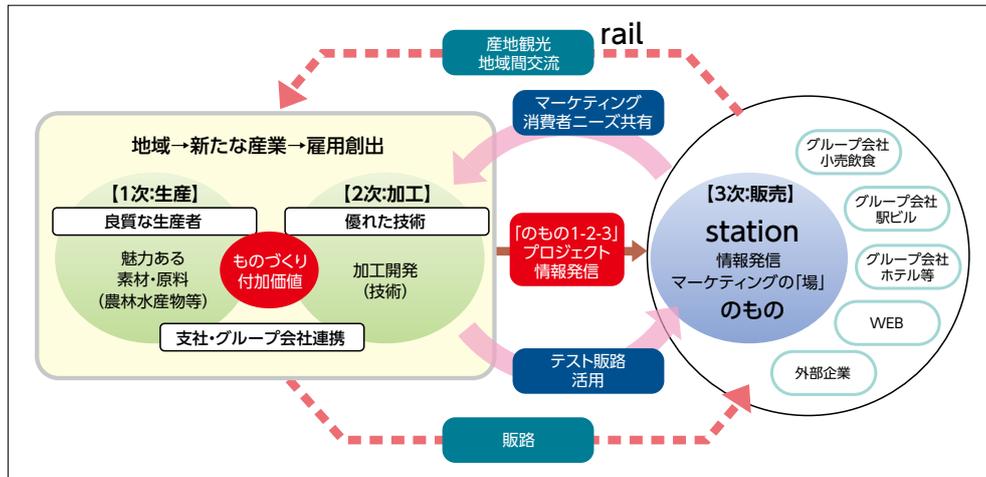


特集Ⅲ 地域との連携強化

のものの1-2-3プロジェクト

従来から取り組んできた「地域再発見プロジェクト」において、より地域との連携強化を図るべく、地域の魅力ある農産物等の素材と優れた加工技術を組みあわせ、JR東日本グループがプロデュースすることにより、地域の6次産業化に向けたものづくりを推進していきます。

「のものの1-2-3プロジェクト」は、商品開発と販売を通じて、地域の農林漁業と連携し東日本エリアを応援する、ものづくりプロジェクトです。のものの1-2-3の呼称には、地域の旬のもの、地のもの、縁(ゆかり)のものを掘り起し、当社が1次・2次・3次産業をつなぎ、6次産業化に向けたものづくりを推進して行こうとの思いが込められています。



【「のものの1-2-3」プロジェクト】概念図



信州ジビエ鹿肉バーガー



三陸秋刀魚岩手箱



アオモリシードル

十日町すこやかファクトリー

「地域との連携強化」の具体的な取組みとして、2014年9月、地域の特産品である魚沼産コシヒカリの米粉を用いた食品工場を新潟県十日町市に開業しました。「卵・乳・小麦」は使わず、食物アレルギーのお子さまでも食べられるケーキや焼菓子などを製造・出荷し、地域経済の発展や雇用促進に貢献していきます。



十日町すこやかファクトリー



すこやかケーキ

## VOICE

## &lt;JRとまとランドいわきファーム&gt;

## 地域とともに歩み、地域に生きる企業であるために

「JRとまとランドいわきファーム」は、JR東日本と福島県いわき市の先進農家が連携し、2016年春のオープンをめざして事業化を進めている「太陽光利用型植物工場」を中心としたトマト生産施設です。私は、この取組みがグループ経営構想Vのコンセプトである「地域に生きる」を最も分かりやすい形で実現するプロジェクトであると考えています。

いわき市は、年間の日照時間が約2,000時間と、太陽の光にとっても恵まれた地域です。ここに敷地面積約2.5haという広大な「太陽光利用型植物工場」を建設し、年間約600トンのトマトを栽培することを計画しています。600トンの販売先としては、首都圏にあるJR東日本のホテルやレストラン等のグループ会社や、隣接する6次産業化<sup>※</sup>施設「ワンダーファーム」のレストランや野菜直売所、他に地元の市場などを予定しています。

「太陽光利用型」の植物工場は、LED照明や蛍光灯など人工光の下で農作物を栽培する「人工光利用型」の植物工場と異なり、太陽の光を最大限利用して植物を生産します。「JRとまとランドいわきファーム」は太陽光での栽培にこだわります。太陽の光をいっぱい浴びて真っ赤に色づいたトマトが年間を通して何度も収穫できる、そんな魅力的な生産施設にしたいと考えています。

そのためには、安全・安心で安定的な生産体制づくりが重要です。私たちはオランダで開発されたコンピュータ管理の生産システムを導入し、ハウス内の窓や屋根の開閉、空調、水回り、農業機械、養液に至るまで、システムを通じて常に適正に管理することで「食の安全」「安心して食べられる農作物」をお届けしたいと考えています。

JR東日本が地域と連携して農業分野へ参入することは、特にここ東北の地においては「震災復興」という意味合いからも非常に好意的に受け止められています。いわき市長から直接、感謝と激励の言葉をいただくなど、その期待の高さを感じる毎日です。施設オープンの暁には「安全で安心な」良いトマトを育て、なおかつJR東日本の得意分野である効果的な情報発信で首都圏での需要発掘と観光客の誘致を実現し、地域農業の活性化に少しでも貢献したいと思っています。JR東日本グループの持つ人と人を結びつける交通ネットワーク、たくさんの人が集まる駅などの施設を有効活用すれば、さまざまな仕掛けが可能だと考えています。

**※6次産業化** 農林漁業者(1次産業)自らが生産だけでなく加工・流通販売を一体的に行ったり、農林漁業者と商工業者(2次・3次産業)が連携して事業を展開する、農林漁業の可能性を広げようとする取組み。1×2×3=6なので「6次産業」と呼ばれる。(出典:政府広報オンライン)



(株)JRとまとランドいわきファーム  
取締役  
鈴木 弘幸